

お知らせ

資料提供先：鳥取県政記者会、鳥取市政記者クラブ

とっとり 鳥取～福部間の道路の計画検討にあたり ふくべ 地域の皆さまと第3回ワークショップを行います

とっとりよおかみやづ とっとり ふくべ
『鳥取豊岡宮津自動車道(鳥取～福部)の道路の計画検討』にあたり、これまでアンケート調査やオープンハウス、ヒアリング調査を実施し、たくさんのご意見を頂きました。

今回のワークショップでは、アンケート等の結果、ご意見を踏まえ、**地域の皆さまと一緒に、各ルート帯(案)における『期待』と『懸念』**について考えていきます。

開催日時

○令和元年9月21日(土) 13:30～

○令和元年9月22日(日) 13:30～

開催場所

○鳥取市福祉文化会館

※位置図は、別紙のとおり



ワークショップ概要

○進行予定： 13:30～ 第1部(前回ワークショップのおさらい) 約10分
13:40～ 第2部(グループワーク) 約140分

○討議テーマ：「各ルート帯(案)における『期待』と『懸念』について考えてみよう！」

○その他： ・参加メンバーは、公募や旧鳥取市・旧福部村の地区会長及び、経済団体等から事前に決定しており、今回は2日間で約50名が参加

・鳥取大学の学生も、スタッフとして参加し、各グループでとりまとめた意見の発表紹介を実施します

・アドバイザーとして、鳥取大学工学部の谷本教授(たにもと)・長曾我部助教(ちようそかべ)が参加

【取材について】

※全体を通じて取材可能です

※取材を希望される場合は、報道機関であることを示す腕章等を着用の上、当日受付までお越しください(受付開始：13:15～)

問合せ先：国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

副所長(道路)

鈴木 晃

【担当】計画課長

TEL：0857-22-8435(代表)

浅井 順一

鳥取豊岡宮津自動車道(鳥取～福部)ポータルサイト

<http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/road/tottorifukube/index.html>



◆今回のワークショップでは、何について話し合うの？どんな議論をするの？

ワークショップでは、地域のみなさまや経済関係の業界に所属される方々にお集まりいただき、「各ルート帯(案)における『期待』と『懸念』」について、みなさまのご意見をお伺いします。



◆会場位置図

鳥取市福祉文化会館

〒680-0022 鳥取県鳥取市西町2丁目311番地



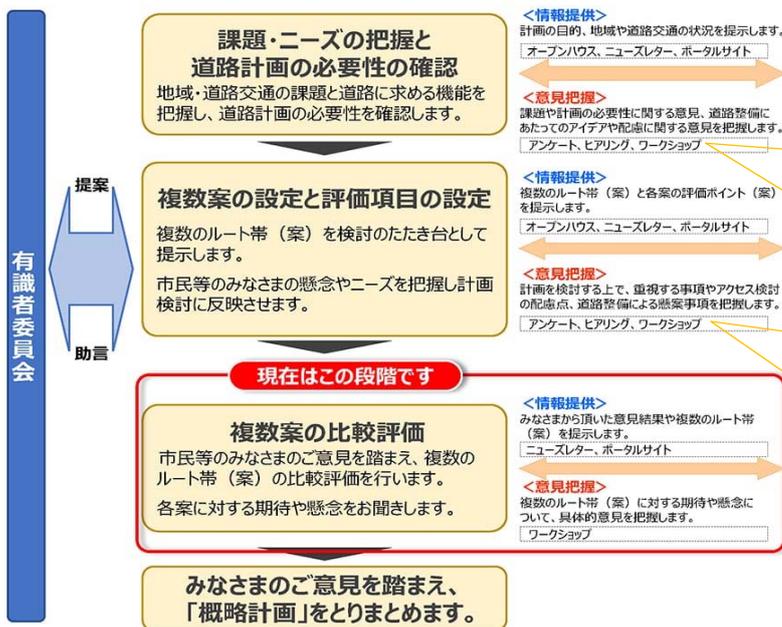
◆ワークショップとは？

ワークショップとは、少人数のグループに分かれて、ファシリテーターと呼ばれる進行役の下、テーマに沿った意見交換を行う場です。

◆鳥取～福部間の道路計画の検討の進め方

鳥取～福部間の検討は、段階を区切り、道づくりの検討を進めていくことを考えています。計画の各段階で、みなさまと情報共有やご意見をお伺いする場を設け、一緒に考え、検討していきます。

計画検討の流れ(案)



●第1回ワークショップ概要

日時：平成30年9月8日(土)、29日(土)

討議テーマ：地域の道路や交通で困っていること
鳥取～福部間の道路が利用しやすくなるための工夫と配慮するべきこと

参加者：総勢59名

●第2回ワークショップ概要

日時：令和元年7月27日(土)、28日(日)

討議テーマ：インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点

参加者：総勢49名

◆第2回ワークショップ開催状況

検討している3ルート帯(案)それぞれにおいて、「インターチェンジなどアクセスを検討する際に配慮すべき点」について、意見交換を行っていただきました。

具体的な設置箇所(案)やその考え方について、各グループで検討いただいた後、発表紹介していただきました。



意見交換状況

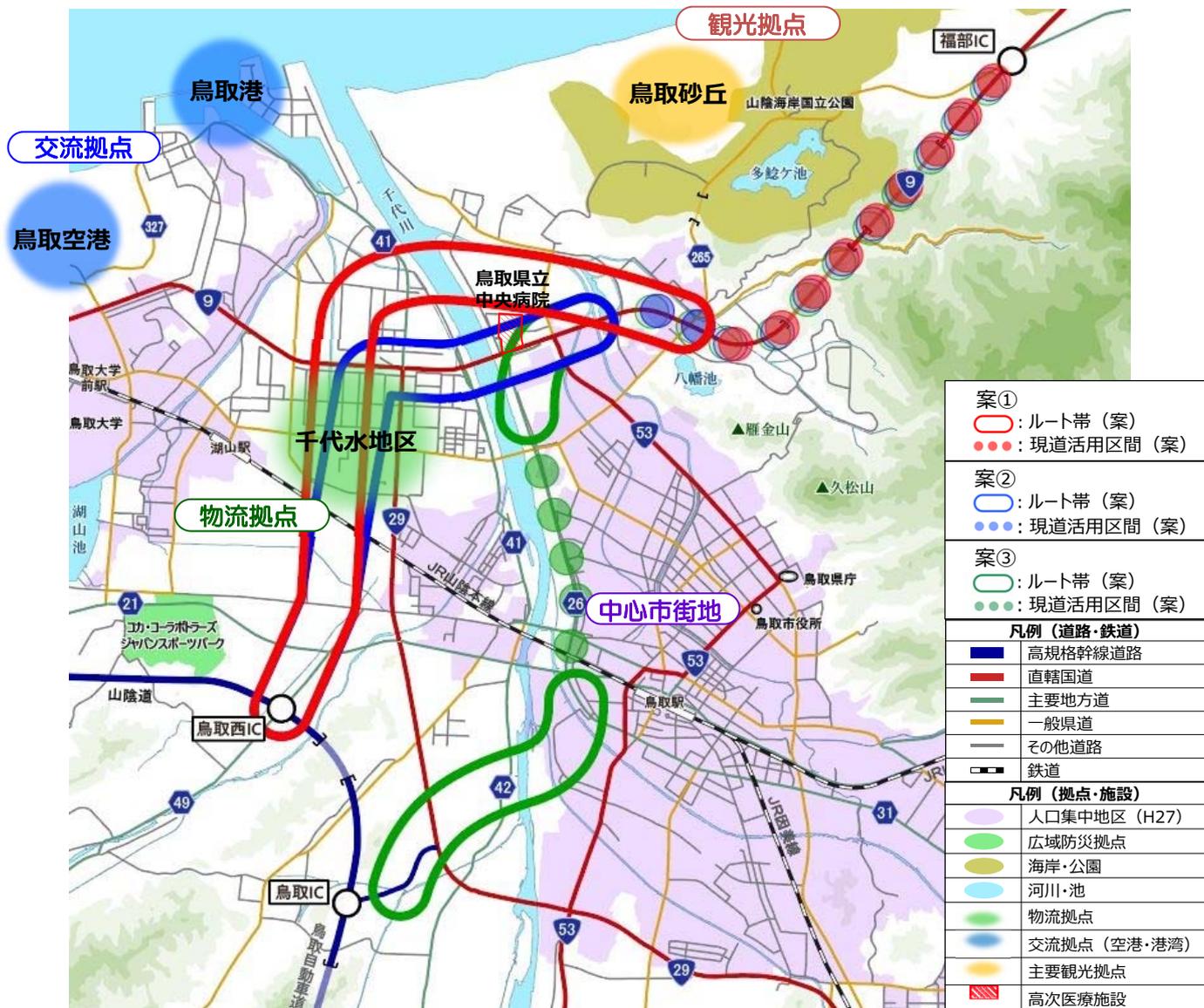


各グループより発表紹介

※みなさまのご意見は、「ワークショップだよりvol.2」として整理し、鳥取～福部ポータルサイトに掲載しています。

<http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/road/tottorifukube/index.html>

◆鳥取～福部間の道路計画について、 3つのルート帯（案）を検討しています



【案①】市街地を回避し、主要拠点を連絡する『全線バイパス案』

- ★物流拠点、交流拠点、観光拠点、高次医療施設へのアクセス性が向上。
- ★千代川を渡る経路が増え、ネットワーク機能が向上。
- ★高速道路から中心市街地へのアクセス性は変わらない。

【案②】市街地を回避しつつ、整備区間を極力最短で結ぶ『部分バイパス＋現道立体化案』

- ★物流拠点、観光拠点、高次医療施設へのアクセス性が向上。
- ★現道の立体化工事にあたって、交通規制による長期間の交通混雑が考えられる。
- ★高速道路から中心市街地へのアクセス性は変わらない。

【案③】走行性の高い既存道路を活用する『部分バイパス＋現道活用案』

- ★観光拠点、高次医療施設、高速道路から中心市街地へのアクセス性が向上。
- ★整備延長が最も短くコスト面に優れてるが、一部、人口集中地区を通過することになる。
- ★物流拠点や交流拠点へのアクセス性は変わらない。
- ★千代川を渡る経路が増え、ネットワーク機能が向上。